

第6学年 道徳科学習指導案

令和7年7月9日(水)5校時
西原小学校6年2組 計32名
授業者 知念 健太郎
共同研究者 儀間 絵里子
宮良 佑子

1 主題名・教材名

主題名:公正な態度で C(13)公正、公平、社会主義

教材名:「森川君のうわさ」(出展「小学校道徳 ゆたかな心6年」光文書院)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、学習指導要領の内容項目 C「主として集団や社会との関わりに関すること」の(13)を中心価値としている。学習指導要領では内容事項を以下のように定めている。

第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年	中学校
自分の好き嫌いとらわれないで接すること。	誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。	誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。	正義と公平さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。

本教材は、高学年の内容項目 C-13「誰に対しても偏見を持つことなく公正、公平に接し、正義を実現することで、よりよい学級にしようとする」の内容を取り扱う。

人間はそれぞれ個性があり、違った価値観をもっている。それぞれ尊重すべき人格であるが、時に、相手によって態度を変えたり、自分の好き嫌いで行動したりしてしまうことがある。また集団の問題に気づいても、多数派に同調したり、他人事と傍観したりしてしまう弱さももっている。だからこそ、そのような自分の弱さに目を向け、常に偏りはないかと自己を見つめていくことが大切である。

公正とは、自分の感情や相手の感情に関係なく、だれが見ても正しいことであり、公平とは、かたよりがなく、だれにでも平等に接することである。人間の弱さを認識したうえで、公正、公平に接したいと願い、そのためにはどのように行動することが大切なのかを考え、実践しようと努力することが正義の実現につながっていくのではないかと考える。

(2) 児童観

【アンケート項目】

① 自分が正しいと思ったことを相手に伝えることはできますか?	できる 21%	どちらかといえばできる 59%	どちらかといえばできない 17%	できない 3%
理由	・できる時もあるし、できない時もある。 ・理由を説明できるから。		・相手に思いを伝えることが苦手。 ・正直になることができない。 ・なんか言われるかもしれないから。	

② まわりに流されず自分が正しいと思ったことを行動に移すことができますか？	できる 13%	どちらかといえばできる 31%	どちらかといえばできない 51%	できない 3%
理由	・言葉で伝えきれなくても行動に移すようにしている。 ・自分で善悪の判断をできるようになりたいから。		・少人数（一人）だと不安で行動にうつすことができない。 ・悪いことをやっている人のことを注意できない。	
③ 困っている人がいたら自分から助けることが出来ますか？	できる 27%	どちらかといえばできる 48%	どちらかといえばできない 17%	できない 6%
理由	・自分が困っていたら助けてくれると嬉しいから自分も助ける。 ・日頃から困った人がいたら助けるようにしている。		・仲のいい人にしか声がかけづらい。 ・ちゃんと聞いてくれないかもしれないし、嫌な態度を取られたらいやだから。 ・自分に自信がない。自らはできない。	
④ 友達からのうわさを信じて流されてしまったことはありますか？	できる 25%	どちらかといえばできる 39%	どちらかといえばできない 25%	できない 10%
理由	・悪口にのってしまった。 ・悪いうわさを聞いて友達をからかった。 ・うそのうわさを信じてしまった。		・悪いうわさを聞いても楽しくない。 ・うわさを信じないようにしている。 ・周りに流されたくない。	

高学年になると、いわゆる「社会性」と言われる段階の子どもたちが多くなる。周りからの視線が気になり、友達からどのように見られているかで判断したり、同調圧力を強く感じたりする時期である。

本学級の児童は、学校生活では友達と良好な関係を築けているように見える。一方で、アンケートからも分かるように、②の問いに対して半数以上の児童が「正しいと分かっているけど行動に移すことが難しい」と回答しており、その理由が「周りの目が気になる」「少数だと不安で行動に移すことができない」「悪いことをやっても注意することができない」と答えている。このことから、集団の問題に直面すると、自分の正しいと思ったことに自信が持てず、「相手に伝えること」に苦手意識を持つ児童が多くいることや自ら進んで公正・公平な態度で行動に移す児童が少なく、同調圧力に流されやすいという実態があることが考えられる。

そこで、本教材を使って、自分の心の弱さを認めつつ、このような問題は自分自身の問題であるという意識を持たせ、周りに流されず、自分が正しいと思ったことを相手に伝える態度を育て、日ごろから自分自身の考えをしっかりとち、公正・公平であろうとする心を育てたい。

(3) 指導観

高学年になると、集団の問題に気付いても多数派に同調したり、他人事だと傍観したりしてしまいがちである。指導にあたっては、傍観者だった「ぼく」が「ぼくもまた、発言しなくてはいけない」と心に決めた場面に焦点をあて、「自分だったら順子さんと同じように正しいと思ったことを周りへ伝えることができるか」という発問を投げかける。その際に、登場人物である「ぼく」や自分自身には「心の弱さ」だけでなく、「正義を希求する心」もあるということに気づかせたい。また、その公正・公平な心を勇気をもって実行に移していくことが、よりよい集団や社会主義の実現につながるという意識をもち、積極的に行動に移していこうとする気持ちを持つところまで高めていきたい。

展開の部分では、自分自身や相手の気持ち・考えを視覚的に捉え確認できるようにするため、「心の数直線」という ICT ツールを用いる。心の割合を決める際には、個別最適な学びへの手立てとして、考える時間を十分に確保し、理由付きで自分自身の考えを持てるようにする。さらに、多様な考えから自分自身が新たな気

づき・発見ができるような交流の場を設定し、「よりよい協働的な学び」へとつないでいきたい。

(4) 校内研との関連

テーマ:主体的に学び、自分の思いを伝え合う児童の育成
～個別最適な学びと協働的な学びをつなぐ授業づくりを通して～

① 「個別最適な学び」の手立て

- ・ICT を効果的に使うことで、学びの質を高め、深い学びにつなげる。
- ・人の気持ちや心の状態を判断するのが苦手な児童のために、教科書を事前読みし、登場人物の相関図を構造的な板書になるよう心がける。
- ・交流をする前に、個人の気持ちを個別で考え、書き表す時間を確保する。

② 「協働的な学び」の手立て

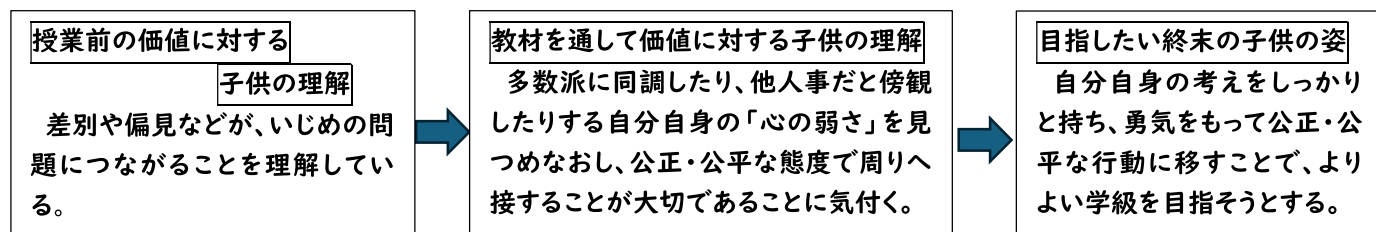
- ・「心の数直線 (ICT)」を活用し、自分自身や相手の考えを確認することで、交流の質を高め、よりよい協働的な学びへつなげる。
- ・交流がしやすいようなグループ作りをする。(座席の工夫)
- ・グループ交流を入れることで、他者との異なる考え方を共有し、自分の考えと比べ、新たな見方・考え方につなげる。

3 本時の指導

(1) ねらい

だれに対しても偏見をもつことなく公正、公平に接し、正義を実現することで、よりよい学級にしようとする。

(2) ねらいとする価値への追及の見通し



(3) 展開

段階	学習活動	主な発問 児童の予想される反応	◆指導上の留意点 ◇評価
導入 4分	●公正の定義の確認 ●アンケート結果の確認	○公正ってどんなことですか？	◆公正の定義について共通確認しておく。
	●教材の内容理解 ●順子さんの行動について考える。	○この話を読んでどう思いましたか？ ◎順子さんはどうして「うわさはちがう」と言うことができたのですか？(ワークシート①) ・勇気があった ・流されていない	◆事前に教科書の内容を読んで、教材を読んで感じた問いを持たせる。 ◆ワークシート①に記入した後、グループで意見交流する。

展開 33分	●「ぼく」の立場になって、自分だったらどうするか考える。 ●順子さんがいなかった時のクラスについて考える。 ●自分たちのクラスは公正なクラスと言えるか考える。 ●公正な態度を取るために大切なことを考える。	○もし、自分が「ぼく」だったらこのあと、順子さんの後に同じようなことが言えますか？ <u>言える</u> →助けたいから →言ったらすっきりするから <u>言えない</u> →やっぱり勇気が出ない →責められそうでこわい ○順子さんがいなかったらこのクラスはどうなっていたと思いますか？ ・いじめがひどくなる ・森川君が不登校になる ・森川君だけではなく、ほかの人も同じ目に合いそう。 ○6年2組は公正なクラスって言えますか？ <u>言える</u> →みんなが自分から進んで正しいことをしようとしているから <u>言えない</u> →先生がいないところでふざけ合う人がいるから ○公正な態度を取るために大切なことって何でしょう。(ワークシート②) ・人に流されない ・自分自身が強い心をもつ ・他人任せにしない ・間違いはすぐに正す ・人の立場になって考える	◆心の数直線を使ってグループで伝え合う。 ◇理由を明確にして、自分の考えを相手に伝えているか。(交流・発表) ◆言いたくても言えない気持ちも認めつつ、全体で確認していく。 ◆心の数直線を使ってグループで伝え合う。 ◆公正な態度を取る大切さについて自分事として考えさせ、全体交流で多様な意見を出させる。
終末 8分	●今日の授業の振り返りを書く。	○公正な態度について、今日の授業を通して考えたことを振り返りにまとめましょう。(ワークシート③)	◆学習内容を自分事として捉え、自分の学級や自分の今までの態度に目を向けて、振り返りを書かせる。(視点を示す) ◇自分の考えを書けているか。(ワークシート)

(4) 評価

①指導の評価

○具体的なねらいを立て、発問(問い返しや揺さぶり)を工夫して授業展開ができていたか。

○思考を整理する手がかりとなる板書ができていたか。

②児童の評価

○公正・公平な心について多面的・多角的な見方で考えることができるようになったか。

○自分の生活をふり返し、公正・公平を希求する心が正義の実現には大切なことであると理解し、正義の実現に向けて努力しようと考えられるようになったか。

【観察・発言・ワークシート】

(5) 板書計画

